

# ミカン生育情報

千葉県  
平成 19 年 12 月号

## 平成 19 年 11 月の気象

平均気温は、第 2 半旬と第 4～6 半旬で平年を 0.4～2.8 下回り、月平均気温は 12.6 で平年より 0.7 低かった。降水量は、いずれの半旬も平年以下で月合計降水量は 58mm と平年の 37%となった。日照時間は第 1、2、6 半旬で平年を下回り、月合計日照時間は 140 時間で平年比 97%であった。

表 1 平成 19 年 11 月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温		降水量 mm		日照時間 hr	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	15.4	15.4	12	24	21	24
2	14.4	14.8	34	34	13	24
3	14.9	13.9	0	22	43	23
4	11.1	12.7	5	24	25	23
5	9.1	11.9	0	23	36	24
6	10.4	11.4	8	30	3	25
平均/合計	12.6	13.3	58	158	140	144

## 普通温州の果実品質

12 月 5 日時点での果実品質は、着色が平年より進んでおり、特に晩性品種の青島温州でこの傾向が強い。先月の低温のため着色が進んだと考えられる。糖度は調査地平均でみると 10.2%と平年より高い。酸度はいずれの調査地、品種ともに平年を下回った。これは 8 月の少雨と 9 月の高温の影響と思われる。糖度は平年並みで酸度は低いいため、甘味比は平年を上回った。果肉歩合は平均 74.7%と平年を下回った。9～10 月の雨により、果皮が肥厚したためである。

表 2 普通温州の果実品質（平成 19 年 12 月 5 日）

品 種	調査地	着色程度		糖 度		酸 度		甘味比		果肉歩合%	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
大津 4 号	三芳地区	8.6	8.5	10.3	10.2	0.88	0.90	11.7	11.5	75.2	75.5
	千倉地区	8.9	9.4	11.2	10.6	1.01	0.98	11.1	10.9	77.9	75.6
	暖地園研	9.1	8.5	10.2	10.2	0.86	0.98	11.9	10.6	65.1	76.2
青島温州	三芳地区	8.3	7.8	9.1	9.5	1.00	0.99	9.1	9.7	74.4	74.6
	千倉地区	7.9	8.6	9.8	10.1	1.06	0.99	9.2	10.3	75.9	73.6
	暖地園研	9.1	8.3	10.7	9.6	0.92	0.95	11.6	10.3	79.6	75.3
平 均		8.6	8.5	10.2	10.0	0.96	0.97	10.8	10.5	74.7	75.1

平年値は平成 5～18 年の平均値

甘味比 = 糖度 / 酸度

## 果実の生育

果実の生育を調査地の平均で見ると、横径および縦径の平年比は、大津4号は93、94%、青島温州は93、90%であった。2品種の平均では横径が93%、縦径が92%と、いずれも平年を下回った。1果平均重でみると、普通温州の平年が144gに対し本年は127gとなった。これは8月の少雨と成り年で着果量が多かったためと考えられる。川野夏柑の果径は、102、106%と平年を上回った。

表3 果実の生育(平成19年12月5日)

No.	種類・品種	調査地	横 径	縦 径
4	大津4号	三芳地区	6.9 cm (93)	4.7 cm (91)
5		千倉地区	6.8 (90)	4.8 (96)
6		暖地園研	7.3 (96)	5.0 (96)
7	青島温州	三芳地区	6.8 (92)	4.6 (89)
8		千倉地区	6.4 (85)	4.3 (83)
9		暖地園研	7.5 (101)	5.1 (99)
10	川野夏柑	暖地園研	9.7 (102)	7.9 (106)
	平均*	普通温州	6.9 (93)	4.7 (92)

( )の数字は平年値を100とした比数 \* 普通温州：4～9の平均

## 12～1月の栽培管理

**マシン油乳剤の散布** 温州ミカンには、12月～3月にカイガラムシ類やミカンハダニの防除のためにマシン油乳剤(97%)の60～80倍液を散布する。好天が続く暖かい日に散布する。雨が降った後、樹皮が完全に乾いていない時に散布すると樹への負担が少ない。また、寒害を受けやすい園地や着花量が少ない園地では4～5月に80～150倍液を散布する。樹勢の弱い樹では散布を避ける。中・晩生カンキツ類には、12月下旬～2月下旬にカイガラムシ類やミカンハダニの防除のためにマシン油乳剤(97%)の60～80倍液を散布する。

**防寒対策** 冬季の落葉は、乾燥による水分ストレスと、強風にあおられて葉柄が弱ることで生じる。そのため風当たりの強い園や幼木、樹勢が低下した樹では、寒冷紗で樹全体を覆い、風当たりをやわらげる。この際、マシン油乳剤の散布直後に覆いをすると落葉が助長される恐れがあるので、散布後10日以上経過してから行う。樹冠下には土壤の保温・保湿のために敷きわらをし、必要に応じて灌水を行う。

### 《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農業総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹研究室 電話 0470-22-2961

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>